



幼 兒 教 育 研 究 雜 誌



母 子 と 女

第 拾 卷
第 四 號



フーバー會發售

第拾卷第四號目次

○十七字詩	無一庵 奇客
○室内の裝飾	下田次郎氏談
○英國人の家庭	宮川壽美子氏談
○兒童と金錢	鳩山春子夫人談
○家庭の感化	江原素六氏談
○感情の教育	樂天子
○藥箱	記 者
○學齡兒童と父兄	弘田醫學博士談
○保育叢話	光藤夫人
○遊戲の手工指導法	和田實
○料理のいろ／＼	記 者
○お伽玉の靴	とよこ

本會役員

會長 主會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會
幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事
編輯 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務
主幹 主幹 主幹 主幹 主幹 主幹 主幹 主幹 主幹 主幹
任事 任事 任事 任事 任事 任事 任事 任事 任事 任事

池田 井田 小田 大田 和田 武藤 福井 雨下 和田
田村 關田 井田 森田 田田 田田 田田 田田
定 治 ヨニ 清 ヨ 藏 枝 譽 釧 實
た ふ 利 綱 ト ク ト

質問規定

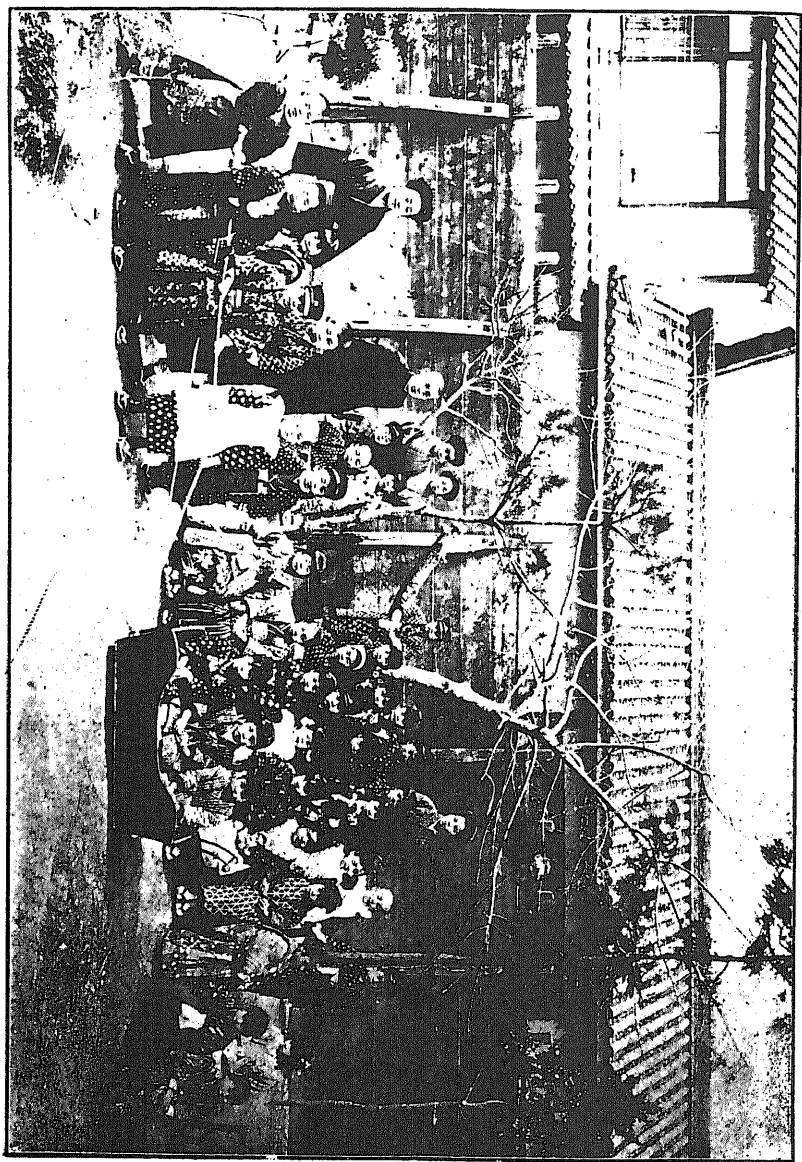
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又は購讀手續

(振替口座東京
一七二六六番)

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會が又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

- 一冊郵税共金拾一錢
- 六冊前金郵税共六拾錢
- 拾三冊同金壹圓貳拾錢
- 郵券代用一割増



岡山師範附屬幼稚園



第拾卷第四號

（風奇客）

見送りし人の霞みて岡の松
種蒔や山吹折つて菜草
爐塞でまだ膝に乗る小猫かな
春雨の庭や若松若みどり
摘草や蝶追ふ妹の余念なき
山吹や茶垣を添ふて雨を咲き
老僧のよき日撰みて接木かな
座布團を枕に蛙聞く夜かな
そこゝに汐干戻る小雨かな
鳴く田螺水田の闇の美しき
春雨や机の上の七部集
春の旅大津も近く馬の鈴
永き日の舟引き上げる工夫かな
菜の花や野寺に稀な鐘供養
小雨降る小庭に菊の根分かな
三里ほどガタクリ馬車や桃の里
春雨や旅の日記の自畫自賛

室内の裝飾

文學士 下田次郎氏談

▲居は氣を移す。諺に居は氣を移すと言ふ事があ
る、居室にそれ相應な裝飾を施すのは生活上は勿
論精神上の娛樂にも大に必要なる事である、今吾國
の居室と歐米諸國の居室とを比較して見ると、歐
米の室内裝飾は概して複雑でそして美術的の意匠
を凝らして居る、吾國のは如何かと言ふと至極簡
單で而も淡泊である殆んど裝飾と稱すべき程の物
は無い、是はもととも東西人種の慣習、趣味など
の相違から起るもので已むを得ない事ではある、
元來歐米人は美術と言ふ事に多大の興味を持つて
居て自然の美は言ふ迄もなく人爲的の美でも極め
て愛賞する、殊に其美術的思想を涵養する機關と
も言ふべき、立派な美術院などが出來て居るから
自然其智識、趣味などが非常に深くなつて來て、
それが室内の裝飾に迄も顯はれる事になるのであ
る。

▲私宅は小博物館。そして歐米の人間は模倣模倣
を好む風があるから、是と言ふ大抵の事は模倣
模倣をして飾付けるそれに又旅行癖があるから其
途中で珍らしいと思つた物などはどん／＼土産に
購つて來る又銃獵などに掛け出した時でも其獲物
の角の生へた大鹿の頭だとか或は鱈、虎など種
々の獲物を壁などに飾付けると言ふやうに學術上
の參考となるやうな物品は何でも蒐集し一種の誇
として居るから宛然小規模の博物館と言觀がある
▲多くなれば寄附。それから出獵と言つても極大
仕掛けで吾國のやうに天城山の猪狩、熊狩或は小
鳥狩といふやうな豆鐵砲式の小さなものでない彼
の詰らぬ計音を傳へられた前合衆國大統領ルー
ベルト氏の南阿猛獸狩のやうに頗る大仕掛けのもの
である、從つて獲物も多いのであるから狭い室内
などは忽ちに一杯一杯になる一杯になれば彼等は
惜氣もなくドンドン博物館などへ寄附して丁ふ。
▲手持無沙汰にならぬ。其から主婦の居室を見る
と又其整然たるのに驚く、中流以上の家では必ず
ピアノが備付てある、そして自分は素より來客の

たゝめ或は家庭の爲めなどに頗る快樂を與へて居る
又一方には家庭文庫と言ふ一つの小圖書館めいた
物が出来て居て所有書籍が列べてあるから來客が
飽きると言ふ事は決して無い、そればかりでなく
談中でも其書籍に依つて文學なり時事問題なり凡
ての物の材料を供給されるから、批評或は意見の
交換などばかりでも滾々として話の盡きると言ふ
事が無い等は全く高尚優美の設備とも言ふべき
で、皆が皆まで手持無沙汰に成ると云ふ事がない
のである何うか日本でも衣食住の歐化するに連れ
斯ういふ美點は是非採りたいものである。
▲富の程度 飄つて吾國の、中流以上の主婦の居
室はどうかと云ふと、成程ピアノだとか、オルガ
ンだとか、或は書籍などの備付があるが、其はホ
ンの飾物に過ぎない、そして話をするにしても、
其多くは臺所向の事や、女中の品評などに定まつ
てるやうである、よしや有つても、寥寥晨星の如
きものだと思ふ、併し之は一體に吾國の富の程度
が低いのであるから一概に歐米諸國に比肩しろ、
と言ふ事は少し無理である。

▲家屋の構造 歐米に比べると家屋の構造、街路
の幅員にしても、大きな違がある、まづ居室の構
造から言ふと、一般に入口が低く且つ狭いから、
外國人などが這入るには腰か頭を曲げなければ到
底出入する事が出来ない、それから内部も天井は
頭が叩へさうである、考へて見ると一つとして衛
生的のものは無いやうである、唯障子丈が紙を使
つてあるから、芥防けや、空氣の流通などには、
幾分か宜さうに思はれるだけで、第一坐はると
言ふ事が、非常に害がある、脚部血液の循環を鈍
くする、是はもう既に世人が認めて居る所である
そればかりでなく、立働きと言ふ事に迄影響を及
ぼして居る、坐つてるとチヨット立つのが、億劫
になつて、自然物事に無性に成り易い、其所へ行
くと椅子の方は、半身殆んど立つて居るやうなも
のであるから立上ると言ふ時でもオイソレと身輕
に立つ事が出来る。
▲屋家の身長 是は自分の想像に過ぎないが、日
本人の丈の低いのは、天井の低い押潰ぶされさ
うな家屋に、住んでるから、頭から壓迫されて、

伸びる事が出来ないのではあるまいかと思はれる
 歐米人の丈の高いのは、大厦高樓の内に起居して
 緩つたりとして居るから、自然氣持も鷹揚になる
 し、又丈が高くなるのでは有るまいか、自分は常
 も斯ふ言ふやうに思つてゐる、望むらくは吾國で
 も、可成家屋の建築などは、歐米風に倣つて室内
 には椅子、机などにして欲しい、佛國のステール
 婦人は斯う言つて居る「建築は凝結せる音樂なり」
 全く味ふべき言葉である、自分は獨逸へ遊學中、
 或る田舎の婆さんの所へ、下宿して居た事がある
 其田舎の百姓家とも言ふやうな一室でさへも、吾
 國の國務大臣秘書官室位の値打はある。
 ▲貧乏に慣れた國 數年來東京でも市區改正と言
 ふので頻に道路を擴げては居るが道路の幅と兩側
 の家屋とは全く不調和で、随分可笑しいやうであ
 る、これも一段と立派な者が出来るではあらうが
 今の處歐米諸國の觀光團が來ても、聊か氣まり
 の悪い次第である、歐洲大陸の内でも、佛國から
 英國へ上陸して、汽車へ乗込むと、何となく英國
 の富有な國であると言ふ事が胸に浮んで來る、汽

車室でさへも實に立派なもので事々物々悉々完
 備して、一つとして眼を驚かせない物は無い、吾
 國では古から貧乏には慣れて居るから、何とも思
 はないであらうが今後は舉國一致、實踐躬行、列
 國に耻ない富有の國となつて、市區改正の道路に
 副ふやうな、大建築物に住居して、室内の裝飾に
 心目を樂しませるやうな、生活にして貰い度い
 である。

英國人の家庭

宮川壽美子氏談

▲私は、英國の健全な家庭を観察して、如何に、
 家庭教育が、國民の氣風に多大の影響を及ぼすか
 と云ふ事を、しみじみと深く感じた一人で御座い
 ます。

▲御承知通り、日本の家庭では、親子が本位にな
 つて居りまして、凡ての禮儀作法道徳は是れから
 割り出されますが、英國では、夫婦が本位でござ
 います。

いますから、男子でも獨身の間は、父母の膝下に生活致しますが、一度結婚をして妻を迎へますれば、別居して全く父母とは獨立するのであります。彼等は是れが普通の禮儀だと心得て居ります。

▲扱て、此事が非常に國民性に關係して居りますのは、第一自由と云ふ點であります、素より家庭は我等が王城なりと云ふ觀念が夫婦の胸に在りますので彼等は誠に自由で御座います。家庭内の事は凡て思ふ通りになります處から、少しも氣兼ねがない、従つて、女子でも氣分がスツバリして思ふ通りを口外する、例へば、貴女の御息様は大層よく學校でお出来になります相で申しますと日本の御婦人ならば、イ、エとか何とか云ふ處を Yes, he is very good と率直に答へます。

▲第二には殖民事業でございます、日本人の様に良人計り出稼ぎに行く事は無い、彼等は、ニユージランドへ行かうが、シンガポールへ參らうが、必らず夫婦手を携へて其稼ぎであります。家庭を持つて參ります、換言すれば、倫敦を各殖民地に移す事が出来るのであります。乃で永住せむ新世

界には精神上の慰安も必要とせられ、宗教も發達する、學園の花も咲くと申す有様、英國の殖民地が益々發展するもの尤ではございせんか。

▲第三に、夫婦本位は、國民に獨立心を盛んにさせます。何故なら親は親で、子供の世話にはならぬ様に心掛け、子供は子供で、成る可く親から助力を受けぬ様一日も早く獨立を希ふからであります。

▲以上舉げた處で見ると夫婦本位は、誠に結構な事許りの様ですが必ずしもさうではない。其結果は非常に個人主義となりまして、親子間の美はしい情が皆無となります。私は、英國の様な Work house の發達を悲しむ者であります。立派な子がありながら、教育院に暮して居る老人を見る度に私は小部分に行はるゝ日本の慈善事業を尊重せず

に居られませんでした。

▲次に親子兄弟姉妹及び姑と嫁とが別居する英國の家庭では、克己の精神を養はれる事が、何うも乏しい様に感ぜられます。姑は嫁に對して少しも満足を感じ、不平を持つて居りまして、朝夕穩

やかな一家に波風を起すまでもあるまい、マア、何時か折も来やうと怒りも何も嘸も下す小姑もさう、又嫁は嫁で、私さへじつと堪へて居ればと己に克つて辛抱する、斯うした風で、親子本位の日本の家庭には、美しい、又力強い精神が養はれませんが、英國の人々は、年若い折から、其様な境遇に置かれて居りませぬから、此點は到底、日本人に及ばないのでございます。

▲然し、私共が、誠に羨ましく思ひ、又學びたいと思ふのは、英國の家庭に於ける精神教育であります。私は是れこそ國民性を立派にする所以の者であると信ずるのでございます。

▲英國はキリスト敎國でございますから、素より家庭に於ける精神教育の中心はキリスト敎であります。

▲一家團樂の食卓で、父様又は母様が、其日の糧を與へ給ひし喜びや又遠方にある人々が無事の感謝の禱りを神に献げるのは、普通の事でございませうがそれを時々練習の爲めとして子供達にさせる事がございます。又度々夜九時半頃になりますと

家族祈禱會を開きまして此時には下女下男に至る迄一堂に集り家内が一つ心に禱るのであります。

▲幼い時から、箸の上げ下ろしにも、斯様な教育を受けて居ります子供達は只だ何となく、成長して參りますが、扱て、幼時の印象は、誠に、深刻なものでございます。彼等が他日成育して、教育を受ける爲めに、或ひは又何か事業の爲めに、親の膝下を離れます時、而して、親しい友に別れ、知己に捨てられ、悲哀に逢ふ時、先づ思ひ出すのは、食卓の感謝でございませう、彼の夜の祈禱でございませう、失意する時、悲境に沈淪する折、父母は、兄弟は、我爲めに禱つて下さるから、必らず神様は私と共に在つて救ひ給ふとの信仰は、聽て凡ての不幸に打勝たして境遇を支配する力強い、自分自身で行ふ！人を作るのであります。

▲英國の子供は、斯うして、父母から、無形の友達―絶對善―神の紹介を與へられるのでございませう。

▲唯だ家庭に於て計りではありませぬ、英國では日曜の朝は、凡ての會堂の鐘樓から、カン／＼カ

ンと絶間なく鐘の音が響きます、此響は今日一日と禮拜を怠らむとする國民を教會に呼ぶものであります、國民の信仰を覺まして、社會的精神教育をする響であめします。

▲英國の母は子供を幼稚園や學校に託す時、人の評判に依つて又は入學者の多少に依つて我子の教育處を定めませぬ。必らず其園主なり、校長に面會して、其人格を信じての後に教育を託します。

▲又家庭に在つては、殊に男兒のお行儀に注意して常に無暗に叱る計りでなく、「お前は立派な紳士ではないか」と云ふ育て方を致します、夫れ故に幾程、亂暴な男兒でも、「立派な紳士」と云ふ自信を傷けられる事が嫌やさに、謹み深くなるのであります日本でも自づからそのしきたりはありまして、男子を先きに立てる事は出来て居りますけれども、まだく、日本のお母様の氣の付かぬ事が多い爲めに、男兒が成長するに夜おそくまでお酒を飲んで、他人の迷惑も思はずドンチャン騒いだりする事があるのは、誠に嘆かましい次第でございます。

▲英國の家庭から國民に感化を及ぼすのは、述べた通りであります、考へて見ますと、日本の家庭の親子本位は、即ち先祖崇拜の美はしい人情から起つたもの、神前や佛壇への朝夕の禮拜は、英國の家族祈禱會と同じ意味のもの、何うか日本特有の美點を失はない様にして、我々は益々家庭教育を進歩させたいものだと思つて感ずるのでございします。

兒童と金錢

鳩山春子夫人談

▲貯蓄思想の涵養 私の実験に依りますと子供が未だ幼稚園に通つて居る時代から貯蓄思想を涵養する事が最も大切であらうと思ひます、無論幼稚園時代には金錢の勘定も出来ない位のものですから如何計り貴いものであるかなど云ふ事の解らう筈はありませぬが夫れが段々成長して來るに伴れて自然金錢の尊いものである事を知り得るので

す、然し唯無暗に金銭を尊がらせると遂には所謂
守銭奴となる弊がありますから是は餘程注意しな
ければなりません。

▲貯金の方法　で私の経験をお話し致しますれば
私は前申しました通り子供が幼稚園に通つて
時代から貯金をさせてやりました、其の方法は幼
稚園へ歩いて行つた時には其車代を貯金させるの
でゐます、又子供の日常品とか何んとか云ふも
のは一切私が買つてやりますから子供は自分で
一厘半銭の金を持つ必要は有りません、尤も小學
校時代からは毎日車代の外に辨當代と云ふものを
少し多い目に、例へば辨當代が七銭入ると思へば
十銭位宛やつて其の残りも貯金させました、而し
て是が小學校から中學校、高等學校と進むに伴
て其の額は随分夥しいものになりました、けれ
ども子供は殆んど此貯金を費つた事は無いませ
ん、是は子供自身の貯金でゐますが私は別
に子供の分として子供には知らさずに毎月幾何づ
か貯金して來ました

▲地圖を買つてやる　以上の外に私は子供に地圖

や繪畫を書かして夫れを一枚幾何かで買つてやり
ました、無論紙や繪具などは總て私から提供して
やりました、而して夫れも貯金させました、是は
唯貯蓄思想を養ふ許りでなく子供が餘り此方面に
趣味を持つて居なかつたから美術思想を養ふ一助
としてやらしたのでゐますが唯地圖を寫せとか
繪を書いて見いとか云つたからとて元來餘り好き
でない子供に之を強ゐるのは却て苦痛を感じさせ
る位のものだと思つたから一枚幾何づかで買つて
やる事にしたのでゐます。

▲監督が大切　斯う云ふ風で貯金は殆んど獎勵的
にやらせましたが子供は餘り之を出して使はうと
はしませぬでした、是は前申しました通り必要な
日常品は悉く私が買つて與へたからでゐます
やう、然し子供が斯う云ふものが必要だから貯金
を出して下さいと云へば縱令夫れが贅澤品だ餘計
な事だと思つても悪い事で無い以上は大抵は云が
儘に買はしました、けれども是は極で稀でゐいま
した

▲思ひ切つた使ひ方　斯んな風に平常は餘り使ひ

ませんでしたが其代り使ふ時には随分思切つた使ひ方を致します、一例を挙げますれば何時かも兄弟二人で薔薇を買つて来ると云ふから二三十銭位買つて来る事と思つて居ましたら驚くぢやないませんが一度に五圓も買て来ました、而して夫れを何うするかと見て居ましたら二人で屋敷中に植ゑて了ひました、殊に私の部屋の前には立派なの許りを選んで澤山植ゑて呉れました其外オルスン、ピアノ、玉突きなど云ふ金目なもの許り買つて来ます、私が私は曾て一度も夫れを拒んだ事は無いません、要するに幼少時代から貯蓄思想を養つて置く事が肝要だらうと思ひます。

家庭の感化

江原素六氏談

國家に必要な事は、先づ之を學校に輸入せよと云ふ事は、全く眞理であります、明治三十三年十月三十日の教育勅語、更に四十一年十月十三日戊申

詔書を賜りまして我々國民を指導しさせ給ふ大御心は深く人民の感謝に堪へぬ所でありまして學校は云ふに及ばず、苟も學校に關係のあります種々の集會で、必ず教育勅語、詔書を捧讀するのは誠に其宜しきを得た途であります、更に注意せねばならぬのは、學校で訓育せねばならぬものは、先づ家庭に入れると云ふ事で、何故かと申せば家庭はあらゆる人道の要素が備つて居る所でありまして、實地に於ける親子間の道德夫婦間兄弟間姉妹間親族間雇主と被雇者間の道德其他總ての社會的道德破壊へますれば、人道の問題一として備らぬものはありません夫れです、人道の教育勅語戊申詔書の實を擧げるには、家庭訓育の力も併せて俟たねばならぬのです、爾うならば家庭の改善は眞に目睫の急務であつて、家庭の改良に力を用ひないで社會の改良を求めろのは全く木に縁て魚を求めろのと同じであると云へる第何期の議會でしたか貴族院の一議員が時の文部大臣菊地大麓君に向つて帝國大學設立以來多くの卒業者を出したけれど未だ人才が出来ないかと云ふ質問に大臣は言下に答

へて大學は學術の淵奥を究める所で人物を出す所ではないと、では人物は何處から出ると云ふに私は家庭から出るのであると思ふ、好い人物も悪い人物も悉く皆家庭の感化に依らないものは一人もないのであります、でありますから、家庭の善悪は子孫の盛衰國家の消長に關するものであつて、家庭の善悪は個人と國家とに大關係を有するのである所謂家庭には種々の種類があつて普通は夫婦親子兄弟の間に至極平和のものが多くあつて中には夫婦共に品性の劣悪なものがあつて、夫の品性が悪くても妻の品性の好いものがある、或は夫には相應の品性はあつても妻の頑冥なものもある、何れも其子女に大なる感化を與へるのです、殊に妻の性質が總ての事に及ぼす感化は、實に驚くべき偉大な力を持つて居るのです、何うして爾う云ふ事が云へるか云ふに、子供位模倣性の盛んなものはありません、生れて直ぐに親しむ所の母親に似るのは當然であるばかりか、人類の記憶と云ふものは善を記憶するよりも惡を記憶する方が強いので父親衆善の感化は母親の不徳の爲めに殆ど全く消

滅するものであります、母が家庭にある時は家庭中の人心を引き眼目を引く磁石である母の行ひは小兒が二六時中模範として之に倣ひ、生涯品行の基となる、善良の母は一人の學校教師に値するとはヘルバルトの云つた言葉であります
西洋の孔子だと稱された希臘のソクラテスの妻サンチベは、夫に似ず性質が極めて頑冥で、其子ランブрокレスに對しては母親らしい行ひがありませんでしたから、屢々母親と衝突しました、其度度ソクラテスが仲裁しては訓育した程です、實に妻の不徳から起る災厄は埃及七年の飢饉よりも大きいと申した位で、ソロモンは辱をさらす婦は、夫をして其骨に腐れあるが如くならしめ、智恵ある婦は其家を立て恩かな婦は己れの手で之を毀ち、忠實なる夫は爪を以て正しき貨を聚むるが徳のない妻は箕で之を空しきに歸し、美くしき婦の憤みなきは金の鑲の家の鼻にあるが如し、相争ふ婦と俱に室に居らんよりは屋根の隅に居んしかず、争ひ怒る婦と偕に居らんよりは、野に居るが好し、相争ふ婦と俱に居るは絶えず雨漏する室に

居るが如しと戒めてある婦徳の國家及び家庭に及ぼす事は誰でも知つて居らるゝ所であるが、彼のナポレオンとマダム、カムバンとの對話は、座右の銘として頗る價值がある、第一世ナポレオンが戦後國民教育の方針に苦慮して偶々マダム、カンバンに意見を問ひました時、カムバンは唯一言母なりと答へました、ナポレオンは深くこの言に感心して、此一語の内に教育の淵源悉く備はると歎賞しました、忠君愛國の精神も正直勤勉忍耐の諸徳も、政治家實業家の改善も、教育勅語、戊申詔書の實効も、賢い婦人の力を俟つて始めて成功するのであります、西洋で或る賢い婦人が三歳になる小兒を抱いて或る教師に向ひ、此子は最う三歳になりました、是れから何う教育したらば宜しいかとの尋ねに教師は、是れまでが大切な教育時期であつたのを貴女は最も大切な教育の時期を失ひなすつたのですと云つたさうです總て小兒は五歳までに記憶する分量は六歳より十二歳まで小學校で得る所よりも多いと申します、私の友人の家に三歳なる女の子がありました、或る時其女の子

が襦袢を掛けてカツボレの眞似を致しますのを見て父親は乳母に向て何時活惚の踊を見せたかと申しますと、一度もお見せ申したとはありませぬではどうして斯様な事をしましたかと云ふに、乳母は胸に手を置いて考へた末、昨年中御飯焚に雇はれた女が折々襦袢の儘で御嬢様の前で踊の眞似をして御喜ばせ申した事のあつたのを覚えて居られたのであらうと申しました、夫れから其子が翌年四歳になつて幼稚園へ往く事になつた、さうすると母親に向つて母さんこれから幼稚園で御三味線と踊の御稽古をするので聞きました、是れも同じ飯焚が折々其子に向つて御嬢様が大きく御成り遊ばすと、御三味線と踊の御稽古を遊ばすので御座いますと云つた事を記憶して居たのであります二歳位で何んにも解らぬ様でも、覺束ない記憶が他日口が利け手足が動く様になると實現される事があると思ひます

近頃孟買から來ました友人の談話に依りますと、御承知の通り同地には鵲哥と云ふ鳥が澤山居まして、籠の中で飼養するのは多くは卵を室内で母鳥

に孵化せしめ未だ聲を出さない前に暗室で何遍となくお早うとか入らつしやいと云ふ語を繰り返して聞かせるので、愈々成長して聲を出す時に第一に囀り出す聲は此お早うと云ふ事である、善惡共に其見聞する事を悉く記憶するのであります、ベスタロッヂ氏は其妻アンナシエルテスと共に、或る時ヤコブと云ふ子供を連れて散歩旁々不圖豚の屠場を見たのです、併し直ぐ立去つたのです、而して其翌朝ヤコブが平日よりも餘り静かでありましたから、母親は何心なくヤコブと呼んだ、處が、ヤコブが坊はヤコブでは有りません豚だ、と答へました、即ち新らしく眼に映じた事が翌朝になつて木の葉杯を豚に擬して餘念なく自分を屠豚場の主人となつた想像を運らして居たのです、是れに似た話しは殆んど枚擧する事が出来ないう位ですが私の友人で極く謹嚴な人が三歳になる男子を携へて或る勸工場へ參つて、何か玩弄品を買つて與らうとしました、すると子供は頻りに三味線を望みます、何う云ふ譯かと考へますと、其紳

士が宅を改築する時、約三ヶ月程借家をした事がありましたが、丁度其借家の向ふ側に藝人が住んで居たので、子供は折々子守に負れて藝人の三味線を弾いて居るのを度々見た結果なのでした、これから見ましても孟母三遷のたとへに付て婦人方は眞面目に考へねばなりません、孟母三遷のお話は御承知の事ですから改めて申しませんが、子供が他人又は近隣の事すら速かに眞似ると云ふならば、況して乳を呑む時分から常住座臥、目撃する母親の言行に感化されぬ筈はないのです、誠に家庭が子女に及ぼす勢力が如何に強いかを考へねばならぬ、而して其家庭教育の主權者は全く母親の責任ですから、婦人位家庭で大責任を持つた者はありませぬ、父親が賢くても母親が愚かであれば、十中八九其家庭は不規律不經濟で、其子女も亦不規律であり不勉強であります、夫れに反して父親に不十分な處があつても、母親が賢ければ其家庭は整頓して經濟的で、其子女も規律があつて勉強家であるのです、夫れですから妻を求め嫁を選ぶには、第一に其母親の智徳を知ると云ふ事が大切な順序であ

ります。維新前私の懇意にして居たる大工に權次郎と云ふ男がありました、律義一遍で、一錢一厘でも自分の主張から直段を減じませぬ、然も其價格が幾分か他の大工より高いのです、少し負けろと云ふと顔色を變へて怒るのです、私が商賣人で精一杯に積つて是より安くは出来ないのを、素人の且那が高い杯と云ふのは間違ひですと云ふ、然し權次郎は正直で仕事が親切で、一點でも手を抜かないと云ふ事は、誰も知つて居ましたから、少し高いとは知りながら、矢張り權次郎に仕事をさせて居りました、此權次郎に付て面白い事があります。

丁度安政の大地震のありました時、大小澤山の家が潰れましたのにも拘らず權次郎の建てた家はかりは、一軒も潰れませんでした、で權次郎の云ひますには、自分が如何程丁寧に仕事をしたいと思つても、其の使ふ職人が其の心になくては決して好い仕事は出来るものでありません、ですから私は弟子を雇ふにも私の妻に人選を頼むのです、私の妻は弟子になると云ふ男の母親の所へ參

りまして色々談話を試みると、其母親が正直か不正直か、乃至は柔和であるか、又は強情であるかい大底解ります、母親さへ正直さうな柔和らしい人であれば、其子は弟子にして間違ひはないと申しましたが、其時は思ふ事をと別に心にも留めなかつたのです、然し今日になつて考へると中々道理のある事に感心しました、幸ひ婦人が家庭に於ける自己勢力の價値を自覺したならば、是れ程愉快な事はありますまい、孔子が女子と小人は養ひ難しと云ひましたが、此難いと云ふ事は不可能と云ふ意味ではありますまい、でありますから誰でも自から心掛けさへすれば、この大なる愉快と大なる成功を奏する事が出来其心掛次第で婦人として此世に生れた事を眞に幸福と感ずる様になります、一家禍福の岐れる所は主婦たり妻たる者の才色の衰ふると衰へざるに依るものであります、普通の場合に於て婦人は才色の衰へ易いものであります、婦人たるものは大に考へねばなりません、ソクラテースの門人ゼネホンと云ふ人の友人イスコマカスと云ふ若夫婦の物語は、主婦たるものゝ

耳にして置いて有益だと思ひますから、爰に申上げましたやう、若夫婦は互に打解けて申しますには我等は及ばん限り正しく直なる道を以て舊き貨に新らしみを加へると云ふ事を理想としたいと云ひ或る時夫が妻に向つて、若し下女が病氣に掛つた時は氣の毒ながらお前に看護を任せねばならぬと云ひますと妻は若し斯る事あらば私は僥倖と思ひます私が熱心に親切に看護したならば、其下女は必ず私に馴れ親しむでありますやうと答へました夫曰く若し強情にして不器用な下女が來た時も、忍耐して貰はねばなりませぬと云ふと妻は若し強情の女が來た時には慈愛を以て之を和らげ、不器用な者の來りし時は親切を以て之を訓育する事を寧ろ樂しむと致しますと云ひました、夫イスコマカスは大に喜んで最後に希望を述べて云ふ様、凡そ世の中の最も快き樂しみは、二人とも老人に及んで汝が余より完全にして予が汝に従はん事である、然らば汝は老いて予の爲には益好き伴侶となり、子供には良き母となり、家には名譽ある妻君となる時である、美と善とは若盛りの時のみ

感情の教育

樂 天 子

吾人の精神現象を能く穿索して見ますと、その中に苦樂の伴つて居る所の或る現象があります、此の苦樂の伴つて居る所の現象が、即ち感情であります、而して此苦樂の伴つて居る所の精神現象は、人々の全生涯の大部分を支配する所のものでありますから、吾々教育者が兒童を教育するに當つて、其精神に於ける苦樂に關する状態に就ては、能く研究して、相當の教育を施さなければならぬことと思ひます、然るに現在智力に關する事柄に就ては、可なり研究も届き、又其結果より案出された方法に依つて夫々教授して居られますけれども、この感情に就ては、感情其の物の性質が智力

に限らず、徳と智とを修むるに依り、終身増進するものであると云ひました、切に望むのは智を増す事と徳を進める事に心を注がれん事であります

のやうに明瞭確實でないといふ點から、又隨つて研究も充分に届きて居らぬ所から吾々教育者が兒童を教ふる時分に、この事項を教へてこんな感情を養成しやうとか、こんな話をして如何なる情緒を惹き起さうとかいふことは、左程考へて居らぬやうに思はれます、然るにこの感情教育の良否は兒童將來の幸不幸に大關係があり、又精神の他の二大現象、即ち智と意との發達も勵きも、この感情の勵きとその發達の程度如何に依らなければならぬ關係がありますから、感情教育は等閑に附することが出来ぬのであります。

今感情を分析して見れば、物を見るときか、音を聞くとか、甘い物を食ふとか、或は香を嗅ぐとか云ふ如く、物が五官に觸れて生ずる所の快不快があり、又身體の内部の状態より來る所の快不快があります、是等を總稱して覺感的感情といひます、此の外に全く精神上の働きから來る所の苦樂があります、是等は情緒といふ名を以て呼んで居ります、故に感情に二大別があつて一を覺感的感情と稱し他を情緒と申します、その情緒なるものに

は、自己に關するものと、他人に關するものと、自己に關係なきものとの別があります、その自己に關するものを例せば恐怖の如き、憤怒の如き、嫉妬の如き、或は名譽富貴に對するもの、如きであります、他人に關するものは例せば愛憎の如き、尊敬の如き、同情の如きであります、自己に關係なきものは、例へば行為の正不正に關して起るもの、又事物に關する道理の了解不了解到に伴つて起るもの、又天然若しくは人工の美物に關して起るもの、約言すれば、善惡眞僞美醜の觀念より生ずるものであります、之を要するに感情には、覺感的感情と情緒の二大別があり、其情緒に主我情、主他情、及び情操の三種別があります次に兒童の感情は大人の感情と趣きを異にする所があるから、左に兒童の感情的生活を畧説し、而して後に其感情の特性を申し述べん。

世に子供を持つて居らるゝ者は儘く御承知でありませうが、兒童は自分の希望を充たさんとし、自分の思ふやうにせんとして、誠に我儘勝手なものであり、又容易に怒つたり、恐れたり、或は嫉ん

だりするものであり、又他人の苦樂などには殆んど無頓着のものであり、又例せば兒童が大切にされて居る所のものを破壊せらるるときは、忽ち烈火の如く怒つたり、泣いたりして、實に手もつけれぬほど烈しいものでありますが、其の時に何か代りの物を與ふれば、復忽ち靜になりて恰も暴風の吹き去つた跡のやうであります、是等は兒童の感情的生活の一般の情態でありますから、其感情の特性は、自己的であり、表現的であり、一時的であり、猛烈的でありと申してよからうと思ひます、兒童の感情にこの特性のあるのは、自然の勢であります、其理由は兒童の智的生活が主として表現的の能力に依つて働き、又意力も微弱であるからであります。

今兒童の感情を教育せんとするには、先づよく其特性を了解し、之に應ずるの道を講じなければなりません、一般に感情を教育するに、二つの方法があります、其一は、消極的修養即ち適當の範圍内に制限すること、其二は積極的修養即ち成長發達せしむること、換言すれば感情の抑制と感

情の鼓舞との二つであります、先づ其抑制の方面に就て述べんに、主我的感情即ち恐怖の如き憤怒の如き、自己の身體若しくは名譽等の保全上又發達上、或る範圍内に於ては必要であるけれども、若し其範圍を超脱するときは、自己の身體上道德上又は社交上に害惡を及ぼすものであるから、適當の範圍内に制限することが最も必要であります、而して其制限に就ても種々の場合があります。

一、兒童の感情が激發したるときは之を抑制するには、其特性の一たる一時的であつて注意力の動搖し易き所を利用するのであります、即ち發情の原因から他に注意を移轉せしむるにあるのであります。

二、身體上道德上等に有害なる感情は之を惹起せしむる機會に成るべく遭遇せしめざるやうにして、その情根を微弱ならしむるにであります、感情に於てもこの理法に基きて取扱はねばなりません。

三、感情抑制の一方便は、兒童の精神の智的方面

を成長せしめ強盛ならしむるのであります、即ち各種の智識を興へ、反省力判断力等を充分に活動せしむるのであります、この方便に依り、例せば兒童に於ける馬鹿らしき恐怖心の如きも、自然に關する智識理法を知得すれば、自然に消滅し、又悲哀の如きも、判断力の發達により事物を比較するの能力に依つて輕減する事を得るが如きであります。

四、下劣なる感情を抑制し微弱たらしむるには、之に對向する所の高尚なる情緒を發達せしめ、強盛ならしむるのであります、例せば兒童の自負心の如きは他人を尊敬する情により、又憤怒の如きは嫉妬の如きは、他人に對する親切心及び愛情等によりて微弱ならしむることを得るが如きであります、要するに高尚なる社交的道德的情緒を發達せしめ、以て下劣なる主我的感情を抑制し微弱たらしむるのであります。

次に積極的方面即ち感情の鼓舞は、社交上道德上必要な情緒は之を發達せしめ強盛ならしむるにあるのです、例せば愛情の如き、同情の如き、

又情操即ち眞善美の觀念より生ずる情の如き、義務心の如き、是等は教育者が兒童をして充分に成長せしめねばならぬことであります、故に前述の通り、是等の情緒を成長發育せしむるには、是等の感情を惹起せしむるにありますから、第一に兒童をして是等の感情を起さしむる事物事情に多く遭遇せしむるやうに誘導しなければなりません、例せば兒童をして實際他人の悲境を見聞せしめて、以て哀憐の情を起さしめ、又は修身上の講話によりて道德的感情を起さしむるが如き、又高尚なる智力を發達せしめて以て情操を惹起さしむるが如きであります、第二には、兒童は其平生交際する所の人々が、常に起すところの感情を模倣するものでありますから、父母教師たるものは、平生高尚なる感情的生活をして、兒童をして之に模倣せしむるやうに心掛ねばなりません。

感情教育の目的とする所は、既に述べたる如く、感情には高下尊卑の差別がありますから、その高下尊卑感情即ち社交的感情的情操とを充分に成長發育せしめ、以て其の感情的生活をしてこの

貴尊なる程度に於てなさしむるのであります、抑々吾人眞正の幸福は、この貴尊なる程度に於ける感情的生活をなし、得るより成るものと考へます。

藥箱

若い夫婦で形造られた新家庭は別ですがこれはお祖母さんのお嫁入のときの着物であるとか、これはお祖父さんの産毛であるとか云ふやうな、ふるい物の保存してある御家であれば、押入の奥とか、棚の隅の方などに煤ぶつた藥箱と云ふものが必ずあります、其中を改めると、いろいろの藥が出て参ります、之を何のくだらないと云つて仕舞へばそれまでですが、心して見ると、不言不語の間に時世の様を知ることが出来まして、これを因に種々様々の思出話などが老人の口から湧き出でまして、家庭の楽しい趣味と云ふものは、此處から澤山拾ひ取ることが出来ると思ひます、

さて其藥箱の中にはどんなものが藏められてあります、先づ東京の中流社會を中心として申して見ますと、越中富山の萬金丹、寶丹、熊の膽、牛膽、櫻樹の皮、火傷のおまちなひ、即功紙などであります、こんなものを見ながらいろいろ考へて居りますと、これ等の物が遠い昔の世を語るやうな心地がするではありませぬか、醫學の進歩した今の世に生れ合せて私共は、其人々の天賦の幸不幸で、假令どのやうな不足がありませうとも、生命を保持する上に於ては、齊しく感謝しなければならぬと思ひます、今の世には此様な藥箱は要らぬでありませうが、無論内容は違はなければなりません、が、藥箱の備付と云ふことは大切なことであらうと思ひます、假令どの様に醫療品や藥品が用意してありまして、彼方此方に散漫して居るやうなことで、決して急場の役には立ちませぬのみならず、物に依ては全く特質を失つて仕舞ふ事があります、例へばガーゼの如き、脱脂綿の如き、取扱ひが悪ければ折角消毒した清潔物と云ふ本質は消

繃帶

護謨管こむくわん

吸吞 べんき

便器
明後さん

硼酸軟膏

アンモニア

ウム
くみ ちんき
若木丁幾

ワゼリン

もので、

▲脱脂綿は多くの人の用ひるもので、別段に其用途を記すまでもなく、いろ／＼の物に遣ふことが出来すから、家庭には是非絶やさず用意して

▲
ガ
ー
ゼ

▲ガーゼ
ガーゼは粗く織つた軟い布で消毒がし

てありますから、創傷を洗つたり膏藥を延ばしたり又は審法などをいたすにも之を用ひますと、變に便利であります、ガーゼには普通の物と一旦消毒薬液に浸したものと二種ありますから、腫物創傷などに當てますものは、消毒したものを選びなればなりませぬ。

● ● 縋帯ほうたいは酒本綿さらしめんで造るのでありまして、種しゆめい

類は澤山御座いますが、普通の家庭に備へて置きたいのは、三角綳帶の巻軸綳帶の二種で御座います。巻軸綳帶とは、普通洒木綿の兩耳の堅い處を斷ち去りそれを三つか四つか或は五つ位に引裂い

て巻いたもので、其用所に從て、幅の廣いのも狹いのも勝手を選んで用ひます、三角綳帶と云ふのは、三四尺の金巾の角と角とを合はせ、二つにした位の大きさのもので、大變重寶なものであります。

▲**検溫器** 醫師が病人を診察します場合に、最も大切なのは體溫の如何であります、此處に記すまでもなく、皆さんは御承知の通り、健康な人の體溫は、普通三十六度から三十七度の間であります、(尤も人に因て多少高温の人もあります)是より昇溫しましたときは、それほど氣分は悪くなくつても、身體の何處かに故障のある證據であり、又風邪などを引きまして頭痛がしたり、氣分が鬱陶しくても、熱の無いときは先づ安全でありますから、一軒の家には必ず檢溫器を備へて置かなければなりません、此檢溫器と云ふのは、直きに狂ひ易いものでありますから、其取扱ひは丁寧にし、使用した後は、靜かに大きく振つて、水銀を下げ液下に挿入する部分は奇麗に拭いて置かなければなりません。

●**ビンセット** 創傷腫物などには成るべくビンセットを用ひて患部へ直接に手を觸れないやうにすることは、病人の爲めにも看護者の爲めにも、利益であります。

▲**安全針** 別に用途を述べるまでもなくこれを用意して置きますと、病人のありました節は勿論、其他の場合にも大變重寶なことがあります。

▲**氷嚢と水枕** 氷嚢は少し價は高くても丈失なものを用意して置かなければなりません、それと同じに、口を縛る絲のやうなものも適當な品を一つ所に整然と備へて置かなければなりません、屢々病人のある家庭では、自然の經驗で分ることですが、馴れないと斯う云ふ場合に非常に狼狽して、色絲などで氷嚢を縛つたり絲が細過ぎたり太過ぎたりしまして大變餘計な手数がかゝりますのみか、患者の靜安を破るやうなことになります、水枕は護謨製の物で、これも備へてあれば結構です、

▲**護謨管** 細い護謨管は素人が用ひますには起き上ることの出来ない大病人が藥を飲むとき、吸吞

の口や藥罐の口に此護謨管を着けて牛乳ソップ等を飲ませますと大變便利であります、其他いろいろの用法がありますが、これを使用すると同時に別に看護の技を要するやうなことは素人が行つては却て危険ですから、爰には只是等の物をも用意して置いていざと云ふとき醫師の命を敏速に達し得る様になさいと云ふに止めて置きます。

學齡兒童と父兄

弘田醫學博士談

▲特に學齡兒童に注意 一概に兒童と言つても其の範圍は頗る廣いが特に學齡兒童に對して注意すべきは父兄が學校以外の日課を課する事である、言ふまでもなく現今の學制は普通の兒童に適するやうにしてあるのであるが然し多數の中には餘りに輕る過ぎる者もあれば又重過ぎる者もある、例へば二碗の食で腹一杯になる兒童もあれば四碗の食も尙且腹を満だすに足らぬ兒童もあると同じで

ある
▲原因は父兄に在り 斯くの如く同じ兒童の中でも力は銘々相等しく無いのである、けれども學校では所謂個人教育を行ふ事が出来ないから止むを得ず其中間を取つて平均三碗の食を與へて居るのである、故に或る一部の兒童は既に其量の餘りに多過ぎるのに困つて居る、然るに親はそんな事には一向氣が付かないで無暗に焦慮て果ては家庭教師まで雇て兒童に勉強を強る又女兒であれば學校の日課以外に家に歸ると音楽だとか茶の湯だとか活花だとか云ふ遊藝を教へるので遂には神經衰弱を起して其結果發育不良に陥り折角延びかゝつた芽を萎縮さしてしまふやうになるのである、是は全く兒童の罪ではなくて父兄が悪いのである、
▲大器は晩成を期せ 幼稚な兒童に過重な負擔を強いる事の不可な理由は前申した通りであるが是は畢竟父兄が他の兒童に後れさせまいと焦慮の結果に外ならないのである、けれども幼少時代の俊秀が必ずしも成長後豪くなるに極つては居ない、獨要するに少年時代は何うでも十分成長をして、獨

立して社會に活動するやうになつてから豪くなれば可いのであるから幼少時代には唯その英氣を養つて置けばよいのである、

▲運動時間の不足 一體今の兒童には身體を練る時間が乏しい、早い話しが朝起きて食事をするに直ぐ學校に行かねばならぬ又午後は二時乃至三時に歸て少し休と又日課の復習をせねばならぬ左右する中には日が暮て了ふと云ふ風で殆ど運動する時間が無い、よく年寄りが今の子供は弱くて不可んと云ふが昔の人は果して頑丈であつたか否かは別として、身體を練る時間が有つた事は事實である、その一例を舉ると柔道をやるとか擊劍をやるとか或は又弓術、馬術などの稽古をやつて居たから自然身體が練られた、然るに今の兒童にはさう云ふ機會がないから何しても身體の運動に不足を感ずるのである、

▲修養と休養 修養とは常に相離る可からざるものであるが一體日常起居は何うしたら可いかと云ふに必ずしも朝は何時に起きて夜は何時に寝ると云ふやうに規律的でなくても可い、唯そ

の睡眠の時間丈は凡極めて置いた方が可い例へば前の晩は床に入るのが少し後れたと思へば翌朝は夫れに準じて少し長く寝かすと云ふやうにするのである、是は唯休養の一例に過ぎないが總ての事も之に準じて行けば可いのである。

保育叢話

光藤夫人

一、庭園の必要
子供に取つて何が一等大切かと申しますれば、恐らく身體の強健といふ事に異存のある人はあるまいかと存じます。其の必須なる身體の強健は如何にすれば得らるゝかと申しますれば、其の條目は色々御座いますが、毎日室の中で遊ばせないで、外氣にふれさせるといふ事も一つの大切な事かと存じます。獨逸あたりでは朝から晩まで、外で遊ばせるといふ事で御座いますが、誠に結構な事と羨しく思ひます、私共も田舎で育てられました

時は、朝から晩まで外の清い空氣にふれて運動したもので御座いますが、一體東京あたりでは其れが余程六ヶしい場合が多いに困ります。

悪しき腐敗した食物を興へて、其の子供の健康を害して悔ゆる母親はありませうが、悪しき汚れた空氣を呼吸して子供の健康を害ひしを悔いて其の豫防をする人は少なくはありますまいか、どうも私の狭い経験から申しますれば、汚穢なる空氣の人身を害ふは、悪しき食物で胃腸を害ふより恐ろしき結果を來しはしまいかと存じます。

私は以前東京の花と呼ぶる、日本橋の或は小學校に數年教鞭を取りました。其時尋常二年から持上りて高等小學を卒業させるまで持ち續けた事が御座いましたが、一體に身體の薄弱な事は甚しいので御座います。どの子を見ましても顔色の櫻色などの殆んどなく、皆青菜を見た様で、骨組が細う御座いました。日本固有の美女の寄集りかのように思ひました。何の爲にこんなのかしらんとよく取調べて見ましたが、大抵は運動不足も御座りませうが、不潔な空氣が原因して居る事を確め

した。其れで子供等に、時を見ては田舎などに行き、青葉の茂れる中で運動せよとす、めました。が、中々家庭の事情がそうは許さないもので、いつも青い顔を其の儘で居りましたが、其れでも富豪の令嬢などは、別荘を田端大森などに建設して移轉し少からず健康を増したものもありましたが、卒業しました年二十人許の中で二人迄無情の風に誘はれて、望み多い身體を黄泉の客とならしめたので御座います。其の病氣が二人共呼吸器病で御座いました。

之等はたしかに空氣の不潔が大きな原因をして居るのであらうと思はれます。常に新鮮な氣中に身をに入れて心地のスガスガしいものは、少しのバチルスなどの進撃を受けましても之を受けつけないでせうが、不潔なる空氣で、ダルイ様な半病人の様な身體に、バチルスが追つかけたら、モ一たまりもない、まゐつて仕舞ふのであらうと思はれます。

からしまして、どーか子供は廣い種々の木や草花の咲き亂れたる中で遊ばせたいとは、私年

來の志で御座いますが、どうも家事の都合上それが出来兼ねて居るのも遺憾に存じます。いつぞや精華學校長の寺田様が、子供の爲の庭園にしる、風流を樂むが如きは、子を持つ親の禁物とか書かれましたの讀みましたが、實に同感で御座います。子供の破つてわるい様な植木は、余り陳列しないがよろしいと思ひます。只子供のはねたり、おどつたり、繩飛したり、ブランコをしたり、かくれん坊をするのに、都合よくする事が大切で御座います。

二、子供は母の手で愛育すべきものなる事夫婦の愛、兄弟の愛、色々ありますが恐らく、此の親子の愛ほど、純潔な物はありません。我が身を捨て、子供の病の平癒を祈ります母親は、昔のみではありますまい。實に其の愛の深い事は譬ふるに物が御座いませぬ。卑しきも、高きも、富めるものも、貧しいものも、皆一樣焼野の雉子夜の鶴で、子の爲めの犠牲は露厭ふ所は御座いませぬ。先日も或る車夫が人の使者として、宅に參りました、丁度宅の五歳の男兒が遊んで居りました

らば、車夫はしきりにお話をして居りました、私が玄關に出ますと、あいさつをすませまして車夫は悄然と、私の子供も丁度お宅様の坊様と同年で御座いました、先日蟬取りに出掛けて石垣の大きな石が落ちて来て押しつぶされて、死にました、お坊様を見て思ひ出されまして、老の眼を曇らして居りました、ア、何たる悲惨な事であらうと、私も身の毛がよだつように聞いて居りました、が、車夫は更に語をつぎて、私はそれでも男子ですから諦めて居りますが、家内の奴どうも何ともいへない程、心を痛めまして、とア、私は皆まで聞く勇氣はありませんでした。母の愛、子に取れて之れ程世にありがたいものがありますか、車夫は諦められても家内が諦められぬは最もア、諦められまい、諦められまい、今迄家で活潑に遊んで居たものが一寸蟬取りに出掛けて五分と経たぬ中に黄泉の客となつて來様とは、誰れとて諦められないと、幾度か同情の涙にむせびました。子に取つて何物にも換へがたい、この貴い母の愛、母の愛は萬人一樣で、少しの變りもないといひま

すが私は私の實驗から割り出して、ドーしても我子に多く接する程、愛の度が強いかと存じます。よく里子にやられた子が里親を慕ふのも此の理であらうと思はれます。

此の強い深い貴い何物にも換へがたい、母の愛、母の方からいへば此の又と得がたい美しい純潔な愛情を我からふみにじり、社會の爲とか、公共の爲とか、職務の爲とかして、他に出て、注ぎ得べき愛情を捨てらるゝ事のある方々に熟慮して頂きたいと存じます。

愛情を捨てるとは怪しからんと仰があるかも知れませんが、愛情は捨てるのでなくて一日他に出て歸れば人二倍も三倍も愛情を注いで、我が心の満足を得るとの仰があるかも知れませんが、私は断言します、其の離れて居た間の愛情は決して償はれ得べきものでないといふ事を。

ア、清く貴い深い愛情を犠牲にして、我が愛子に人に預け、且つ傷はれ、社會國家の爲めに盡し、として、何の益する所がありませんか、却て事の本末輕重を辨せざるの謗りがありましても辯解の辭

はありますまいかと存じます。

今更くり返すまでもない、其の子は之を生みし母の手に育てらるゝより幸福な事はないのであります。母も亦生みし程の子ならば、之を其の手で鞠育せねばならぬ義務があります。しかるに之を他人に譲る、其の義務を放擲するものといはれても返す言葉はありません。私は大に皆様に申し上げたいと思ひます。婦人にして職務あるものは、母となりし場合に之を放擲すべきであります。而して其のいぢらしき赤子の慈母となりて、朝夕之が面倒を見られよと、之れ婦人否母の本分を全くする所以のものであります。

私は五兒の生まれますまで、之を人手に托して、以て自己の職務に従ひました。勿論下女を雇ふ際には出來得る限りの手を盡して、子供爲によいのを撰びました。されど今日五兒の中で一等品性の卑しいのは、一等下女に多く接しました子で、一等美しき性情を有するののは、一等我手に鞠育しました子で、其の差の甚しき事、以前職務に従ひし時を追想して悔恨の情轉た禁ずる事が出來ませ

ん。私は痛切に感じます、よしや貧窮で人らしき生活の出来得ざるまでも、我が愛子と共に其の辛酸を嘗めて是非善惡の識別し得らるゝまでは、一日たりとも愛子の側を離れまじと。

私余義なき事情の下に、職務をすて、専ら家庭の主婦となり、五兒の母となりましてから、こゝに一年有半、朝から晩まで、晩から朝まで、子供と寢食を共にして、其の面倒を成一大手に受け、臺所の方を下女に委せて、下女にさへ成丈接せしめぬようつとめてから、心の方は余り目立ちません。が、身體の健康はたしかに増進した事が分ります。無論よく研究して見ますれば、其の心的狀態も余程變を來したに違ありません。男子でもですが、女子の朝から晩まで、接する人の眞似をする事は驚くばかり、母は我が子を見てよろしく自己の反省の鏡として、よろしからうと存じます。其のよく眞似る子を下女等に預けて置くの危険な事は、今更くり返す必要もない明々白々の事で御座います。

遊戲の手工指導法

和田 實

二六

遊戲の手工は敎授課程にあらず。從つて之を幼兒に課するに當りては努めて其不自然なる現出を避けざる可からず。不自然なる現出を避けて滑らかな進行を見んと欲せば宜し。幼兒の自發活動に現はるゝ作業的行動の發達段階を仔細に觀察して以て之に適當なる措置を施さんことを要す。

此意味に於て吾人が幼兒を觀察する所に因れば幼兒の作業的構造的興味の發動する第一歩は彼大人の作り與へたる玩具的製作物の鑑賞に始まるものと云はざる可からず。即ち祖父母、乳母、其他の幼兒看護者が最初に手製し與へたる紙人形及び折り鶴が先づ幼兒の鑑賞し玩弄するに適するに因りて茲に製作の興味を刺激せらるものとす。斯くして刺激せられたる幼兒の製作の興味は頓がて模倣の本能を驅つて簡易なる模倣的工作となるは當然の順序にして之に因りて其興味は益々擴充せられ其

發達は益々促進せられ遂には僅少なる指導を以て又は全然指導なき自己活動なき之を工作し得るに至るものとす。遊戲的手工は幼兒の此發達段階に應じて適當の指導法を講究せざる可からず。即ち遊戲的手工の指導法は別ちて直接指導及間接指導の二大部に因りて施さるゝを要す。今先づ間接指導法より順次之を説明せん。

間接指導法は幼兒の製作の興味の基礎を培養し兼ねて製作の順序方法を無意識的に知らしめんとするものにして主として教育者の製作を眼のあたりを観察せしめ且其製作物を幼兒に給與して鑑賞し玩弄せしむることに因りて施さるものにして彼の幼兒の工作的發達段階の第一に應せんとするものなり。

人或は新に授與せんとする材料は可成的享受者の好奇的興味を牽かんが爲めに授けんとする其日時迄は何等の暗示も何等のアウトラインをも與へざるを以て極めて便宜とすと説くものなきにあらす。狡猾なる學校教師が興味少なき材料を以て徒に教授時間を充たさんとする時若しくは未熟なる

教師が比較的に教授法の成功を希望する時等に於て斯る政略的、秘密主義を採ること往々にして之れありと雖も然も是れ極めて不自然にして且迂遠なる方法なりと云はざる可からず。何となれば斯の如き益なき材料の秘密主義は之を開方して前々より觀察せしめたる時に比するときは簡易なる工作に對して徒に一層の勞力を費すの必要ある可く且又其製作物に對する幼兒の興味は前々より豫備せらるゝことなきが故に之が爲めに満足せしめらるゝ價值感情は甚だ乏しくして喜悅の情は然して高潮に達することもなかる可ければなり。假令開方の主義を採ることが幼少者をして時に豫定せる後年の材料を何時の間にか知悉し居りて折角の用意せる材料に不足を告ぐるが如き不便はありとも之に因りて幼兒の自然なる工作的發達を助長し眞正なる意味に於て幼兒の自己活動を促進し得たる効果は偉大なるものありと云はざる可からず。此効果の存する處より見れば間接的誘導法に因りて幼兒の機巧が未だ充分に發達せざる以前に於て早く既に其細工其ものを觀察せしめ細工物其ものを鑑賞

せしむるが爲めに生ずる月々の豫定變更や年々の材料變更の如きは極めて些少の煩勞と云はざる可からず。之を是思はずして、彼の徒らに「見るときは覺ゆるが故に不都合なり」との理由の本に一切の材料を豫定せる時日の到着する迄全然秘するか如きは吾人は其何の意なるやを解するに苦しむものなり。

以上の理由に因りて家庭若しくは幼稚園の如き場所にありては機會のあらん限り幼者をして長者の工作を觀察せしめ其製作物を給與して存分に鑑賞せしめ以て間接に工作の興味を培養し簡易なる製作的手續を無意識的に知らしむるは策の得たるものなりとす。

斯の如くして工作的方向に誘導せられたる幼兒の興味は遂に發して現實的行動を採らんとするに至れば保育者は進んで直接的指導を施さる可からず。

直接的指導を要する幼兒の工作は大凡次の三段階に區別し得可し。

一、模範に因る模造工作

二、少許なる指導を受ける半自由工作
三、全然自由なる自己工作
今順次之を説明す可し

一、模範に因る製作
模範に因る製作は從來最も多く採用せられ現在に於ても亦最も多く行はれつゝある恩物教育法なるが如し。然れども是れを幼兒の自然的活動に徴して考察するときは幼兒の模倣的作業は斯の舊式幼稚園に於て見るが如き終止ある模倣的製作にあらすし一單元的作業の中に於て或は始めの部分に或は終の部分に唯幼兒の不案内を感じ自作獨行すること能はざる部分に於てのみ模倣しつゝ進み行くを以て普通とす。
彼幼稚園等に於て屢々見らるゝ如く一個の作業の全體を通じて全然教師の一舉一動を悉く模倣し秩序を遂ひ順序を蹈みて進み行くが如きことは幼兒自然的活動にあらず若し幼兒發達して此の如き境界に進み得可くば其時は以て嚴格なる教授を行ふことを得可きときにして最早遊戲的進行を施すの必要なき時なりとす。

且又此の如く嚴格なる模倣的進行は決して幼児をして工夫、想像の餘地あらしむる所以にあらず。故に幼児をして遊戲的に誘導せん、場合に於ける示範的方法としては單に作業の一部分に存するものと見るを以て適當なりとす。之を以て幼児の作業の全體を律し彼の小學校に於ける示範的教式の夫れの如くならしめんとするが如きは極めて不自然なる方法と云はざる可からず。即ち遊戲的手工中に於ける示範的方法は作業の進行中に於ける某時機に際し兒童の要求に應じて提供せらる可きものにして全作業を悉く此方法に因りて爲さんとするは徒に幼児の自由を抑止し其作業的苦痛を感ぜしむるに過ぎざるものとす。之を要するに遊戲的手工指導上に於ける示範的進行は主として幼兒の作業の訂正、及其濫帶の促進等の場合に於て活動す可きものにして始めよりは嚴格に豫定す可からざるものとす。

斯くして模範に因りて工作せしめんとする場合に主として模範の示し方に注意するを要す。示範上第一に注意す可きは模範の適切なることなりと

す。即ち幼兒の發達段階に因りて其方法は多少の斟酌を要す可く最も幼弱なるものに對しては模範の大き、位置、方向、等も成る可く幼兒の手にするものと同一なるを要す可し、例へば物の左右の如きも保育者の右は彼等に採りては左なるが故に幼兒をして右せしめんとせば保育者は左せざる可からず。若し之に反して右なるが故に右を示すと云ふが如き條理一遍の示範を行ふときは徒らに幼兒の腦裏を攪亂せしめて何等の効果もなきに至らん。故に示範者は注意して幼兒の腦裏に示範者の思惟する如き動作看念を如何にして生ぜしむ可きかを苦心せざる可からず。

若し又多數の幼兒を同一時に集めて指導せんとするときは更に示範の大き、其位置、方向に注意せざる可からず。概して模範は全幼兒の一目瞭然たる様之を大にせざる可からず。其位置は全幼兒の最も見易き場所ならざる可からず其方向は成る可く幼兒の製作物と同一方向に置かるゝを要す。然して此時に於ける幼兒の位置は可成的模範に對して近距離の處にして然も正向し得る所ならざる可

からず。

二、半自由製作の場合
少許の指導に因りて半自由なる製作をなさしむるときは必要なる注意條件の外は安りに關涉せざるを良とす。多くの場合に於て大體の製法を説明し

二三の要點に關して注意することあるときは大體幼兒は製作し得る程度にあるを以て常例とすれども然も工作中に於ける保育者の監視と訂正と指示とは最も重要な任務とす。此豫備の注意と監視

と訂正と指示とは半自由製作の最も普通なる作業形式にして幼兒誘動上最も多き場合なれば保育者は常に此形式を最も多く採用せんことを要す。

豫備の注意は周到ならんよりも大要ならんことを要す。幼兒は決して周到なる注意を記憶し得るものにあらず。故に工作の前には差し當れる一二の要點を示すに留りて直に工作せしむるを以て適當とす。

然して他は工作の進程に連れて隨時に適宜に加へらるゝを要す。

訂正は幼兒發達の程度に應じて寛嚴の度を異にせ

ざる可からず。安りに幼兒の工作を攻撃して其製作的價値を劣すは決して幼兒を獎勵する所以にあらず。且其訂正は主として幼兒自身をして爲さしむるを以て常例とせざる可からず。何となれば工作は幼兒の工作にして教師の工作にあらざればなり。

工作中に於ける次の手順の指示は必要の時期に達して始めて發せられざる可からず。其必要の時期は監視中に注意して之を發見せざる可からず。若し必要ならざるに安りに汗渉を加ふるか又は必要を過ぎて尙且何等の指示もなきが如きは徒らに幼兒の興味を損喪せしむるに過ぎずして遊戲的手工誘導の本旨に反するものなり。

三、幼兒の自由製作
幼兒をして自由に製作せしむることは遊戲的手工の理想とする所なれば幼兒の進歩に應じて常に其機會を逸せざらんことを要す。此場合に於ては其材料の範圍、數量、等に少許の豫定を與ふるか又は全然工作の種類、材料、等を幼兒の選擇に委することあり。何れにしても工作の始めらるゝや主

として幼児の自由に一任し保育者は適宜の時期に當りて時々批評、を試みるを以て満足せざる可からず。而して幼児の製作に對する保育者の批評は常に積極的獎勵を與ふるものにして其言語は幼兒の機巧に對して直接的賞詞たるべく其製作物に對しては更に鑑賞的に嘉賞するを以て普通の場合とせざる可からず。何となれば幼兒及其製作物に對して間接的に圓曲なる賞賛を與ふるは徒に幼兒を大人扱ひにするものにして早熟的傾向を早むるに過ぎざればなり。

以上述ぶる所に因つて幼兒の製作を誘導するの法は畧之を盡くせり。終りに臨んで其幼兒をして製作せしめたる物品は之を如何に取扱ふ可きかに就いて一言せん。是れ又一顧の價値を有するものと云はざる可からず。蓋し幼兒の製作の行動たるや斯の大人の夫れの如く單に製作の完了を以てのみ決して満足するものに非ずして常に其自己の製作物を鑑賞し之を愛玩せんが爲めに行ふを以て最も普通なるものとす。而して此鑑賞や此愛玩やは幼兒の發達上決して徒勞に屬し徒戯に終るものに非

ずして實は製作の興味と希望と計劃とは私に此中に涵養せらるゝものなりとす。然れば幼兒をして其製作物を愛玩せしむることは手工誘導上最も適切の方法なりと云はざる可からず。唯如何にして之を玩用せしむ可きは其製作の種類に因りて夫々適切の處置を講せざる可からざるが故に今一概に之を論斷するを得ず。茲には唯幼兒教育者は妄りに「參考」の美名の下に幼兒の製作物を沒收するの愚をなさざらんことを警告するに止め詳細は以下實際篇に於て述べ所あらんとす。





料理の いろく

○雌鶏ヂヤ〜焼

雞肉百匁程を組にのせ庖刀の刃の方にて粗く叩きたる中へ、皮を剥去りたる大葱姑三箇を擦し込み、再び庖刀にて叩き湿ぜたらば焼鍋に大匙一杯の牛酪を煮溶かし、その沸騰するを待ちて叩肉三分の二程を入れ平たき匙にて上より叩き付け、更にうち反して兩面より程よく焼き、温め置きたる皿に取りて洋芹に胡椒とソースを添へ供す

○柚べし玉子

形よき柚を水洗して蒂より三分程の所を横に切り放し、中の核腹を除きて清水に浸し、灰汁ぬきをなして箆に伏せ置き、雫の切れたる時、白砂糖少々入れ、暫時してその上より溶したる玉子を入分目ほどに流し入れ、食鹽、煎胡麻、漬山椒各少々を入れて、寒酒しの粉をふり込み、蒂の蓋をなして蒸籠に仕かけ十分餘り蒸す

○霜降鯛さしみ

七寸大の鯛を選び、鱗を去り腸を除き、三枚におろし、薄骨をそぎて式の如く木取り、皮目を上に美濃紙を張り詰めてその上より沸湯を注ぎかけ、皮の稍や白くなるを度とし美濃紙を取り除けて鋭利の指身庖刀にて薄作になし、皿に盛りて擦山葵その他いろいろの妻を添へる。霜降は魚の嗜味を除く爲めなれば注湯の餘り利

き過げぬがよし。

○木の芽田樂

豆腐を適宜の厚さに切り耳を截ち去りて布を敷きたる皿の上に並べ。上に美濃紙をかけて、清らかなる灰をふりかけ。又その上に美濃紙をかけて豆腐を並べ紙をかけて薄板をのせ、軽く壓して一時間程経ちたらば板、紙、灰を取り除け、木口より粗冊に庖丁して竹の平串をさし、兩面を炙りて、みこ蒂で木の芽味噌を塗りに串の儘皿に盛る、木の芽味噌は山椒の芽をよく摺り、甘味噌に砂糖を摺りまぜ裏漉にかけて味噌にて程々に溶ばす。

○寄せ鹿角菜

伊勢鹿角菜の成たけ細小なるを水に浸し、二時間ほど経ちたらば屑を選り分けよく水洗して箆に取り掲げ、雫を切りて淡味に下煮をなし置き、扱鯛、鮫、比目魚などの肉を庖刀にて抜き取りて、摺鉢に入れ、煮切味噌を加へてペト〜に摺り和らけ、煮置きたる鹿角菜を等分に混交して、蒸籠に据へて布を敷きたる折枠の中に詰め、上を平に均して釜の湯の沸騰したる上にのせ、肉の厚さ一寸に付一時間の見當にて蒸し上げる。

○牛肉のボール吸物

牛肉の油なき所を細かく切つて、能く叩き（挽肉の機械なれば二度挽けばよし鹽と胡椒を少し入れて、肉百匁に對し卵の白身一箇分を加へて小さく丸形になし、目のある金杓子で揃ひ、吸物桶に五箇宛入れて更らに牛蒡を一寸五分位に切り皮を剥き、堅横に庖丁を入れて針の如く極めて細かに打ち切つて、水に浸し竹箸で一挟み牛肉の側に入れ、白味噌で通常の味噌汁を拵えて椀に八分程注ぎ入れ、粉山椒を一振り入れて膳に上すのです。

○早漬味噌大根

甘鹽の澤庵を二分程の厚さに庖丁し、表裏より庖刀目を入れて念入のキリム／＼にこしらへ、煉り冷却したる甘味噌にて蜜なり蓋物なりへ漬け込み、蓋を密閉して半日程経ちて取出しそのまゝ眞二つに庖丁して用ゐる。

○落し玉子味噌汁

田舎味噌と水とを汁鍋に入れて杓子にてかきまぜ、その沸騰したる時削りたる鰹節を投じ、直ちに鍋を下して毛篩にて他の汁鍋に濾入れ、その濾粕を摺鉢にてよく摺り二番汁となして小鍋に濾し込み、生海布を水に浸して心を除き、適宜に庖丁して二番汁にて下煮をなしたらば、その生海布を成べく小ぶりの汁椀に固盛りし、接玉子は食すの數程別々の小皿に割落して、少量の二番汁を沸立したる小鍋の中へ一個づつ移し、その半熟になりたる時生海布に寄せかけて、椀に盛り沸立てたる一番汁を玉子の稍や見え透く加減に注ぎさして胡椒の粉をふり入れる

○雞肉ふくろ煮

雞肉のやわらかい即さゝみといふ所をとり鹽を少しふつて置のです又雞の油を揚げ鍋に入れて火にかけとけた所へ入れて兩面をためて置くのです夫から味噌と醬油を鍋に入れて火にかけ煮たちました所へ葛粉を水で溶かして入れどろ／＼になりましたら前にいためた鶏肉を入れてよくまぜ夫から胡椒をふつて出すのです

此分書は雞肉が百匁ならば味噌が八勺に醬油が八勺葛粉が食匙に一杯でよろしういいます又前に雞肉へふります鹽は極少々でよろしういいます煮えてからかける胡椒も適宜でよろしういいます

○乾桃ジャミ

乾した桃を二日間水につけ其水のまゝ鍋に入れて文火にかけ凡一時間も煮るのですそれが少なくなりましたら水をさしては煮る

のですすつかり柔らかくなりましたら此煮ました桃の中へザラメ砂糖を入れて矢張り強くない中火にかけて凡三十分間もかきまばしながら煮ましたら鍋を火の上からおろしよくさますとジャミが出来ます

此分量は柔かくゆでた桃が器に一杯ならばザラメ砂糖が同じ器に山もり一杯の割で煮るのです

○桃煮附

天津桃（俗にスイミツ桃といふ）の乾たのは乾杏のやうな味がいたし升から煮つけまして鹽焼の前盛などに用ゐますと杏より一倍風味がよろしう御座います其調理法はこの乾した桃を凡二日間位水につけて置き煮ます時に此つけました水ごと鍋に入れて火にかけるのです文火で三十分も煮ますとすつかり元の通りの天津桃のやうになりますそれから此中へザラメ砂糖を入れて矢張り文火で三十分間も煮ますと極々やばらかくなります又もつと丁寧にしますにはあく引砂糖を桃がすつかりかぶる程に入れ美濃紙を上にかぶせて煮るのです汁がすつかりなくなりましたら鍋をおろして皿へもろのです

此分量は茹でました桃の分量の半分位砂糖を入れるとよろしう御座います

○乾桃入カスタープデング

前に申しました乾した天津桃のスチウをこしらへて別に小さな鍋へ牛乳とバターを入れ火にかけ煮たちましたら鍋をおろし玉子と砂糖とレモン油を入れてよくかきまばしバターに前の桃のスチウをならべ其上にかけるのです夫から此バイ皿を天皿の上のせ天火に入れて焼くのです矢張り上火はよく下火をよわくしてやくのです此皿の上面が焦げましたら天火から出して其皿ごと出すのです

此分量は桃はバイ皿にならべる丈ですから適宜でよろしう御座います上にかける汁の分量は牛乳一合にバター食匙に一杯玉子が三個砂糖二十匁レモン油が五六滴で宜う御座います



玉の靴

とよ子

昔ある田舎の百姓家に梅子と云ふおとなしい女の子が居ましたうちが貧しい爲
 學校も早く下り毎日／＼おとうさんのお手傳に山へ行つて木を拾つたり又お母
 さんのそばで糸をつむいだりしてよくお手傳をしますのでほめない人はない位
 でした。

梅子さんのお父さんも又大變に梅子さんを可愛がりどうかして立派な人にした
 い、どうかして學校へもやりいろ／＼の女の道を習はせたいと一生懸命に働き
 ましたがいつになつても梅子さんを裁縫にもやられませんでしたので或日おとうさ

んは。

「梅子やお前もこんなに大きくなる迄とう／＼何も教へて上げられなくて可愛憎だつたね、私ももう此年になつてはそうせつせと働く事も出来ないしそれから氣の毒だがおつかさんと一所に働いておくれ」

と涙をこぼして云ひ聞せました、それでなくてさへ孝心の深い梅子はどうかして年寄つたお父さんの安心なさるやうせつせと何かを覚え人に笑はれないやうになりたい、そしてお父さんの代りに働いて樂をさせてあげたいとそれからといふものは今迄より朝は早くおきて畑へ行き山へ昇り夜は母さんの側でお仕事やお習字をしたりして勉強しますのでお父さんもお母さんもお喜び毎日／＼樂しい日を送つて居りました

其年も暮れ梅子はどう／＼十八の春を迎へ可愛らしかつた子は美しい／＼娘となり何もかも出来ない事はなくほめない人はない様になりました。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

ある暖かい春の日梅子はお母さんと椽で一生懸命にお仕事しておりますと今迄お隣へ遊びにいつていたお父さんがいそがしそうに歸つて來て

「梅子やあしたから三日の間王様の御殿で村中の娘を集めて色々の事をさせてお覽になり其中で一番何かのよく出来る美しい娘を王様のお子様におきめになるそうだ」

と云ふのを聞いてお母さんはまあ／＼それはうれしい事梅の運がむいて來たと云ふものあしたは朝早くから行つておいで、今からお風呂をわかしませう」

と夢中によるこびましたがお父さんは心配そうに

「そんなにわけなく行かれるならいゝが御殿へ行くには紋付を着て行かなければ入れては下さらないそうだし、車にも乗せてやらなければならぬどうしたものだらふね」

と之を聞いてお母さんはがっかりしてしまいました梅子はお父さんやお母さん

の心配しんぱいして居ゐらつしやるのを見みて。

梅うめ おとうさんあたしちつとも王様わうさまのお子こになんかなりたくありません、こ
うしてお父とうさんやお母かあさんのお側そばにいて可愛かあいがられ毎日まいにちくたのしく暮くし
て居ゐるのが何なによりうれしいのですから、そんな心配しんぱいはなさらないで下ください」
と云いひますのでお父とうさんもお母かあさんも少しは元氣げんきになりましたので梅子うめこもうれ
しそうにいろくのお話はなしなどして父母ふはを慰なぐさめて其日そのひもいつもの様に梅子うめこさんの
お料理れうりで三人にんた楽しい夕飯ゆふはんをすましました。

やがて翌日あくるひになりますと近所きんじよの娘むすめたちは皆みなそれく立派りっぱにして車くるまにのつたり馬
車こへ乗のつたりして王様わうさまの御殿ごてんへと出掛でかけて行ゆきますのを見みてお父とうさんもお母かあさ
んも又々またどうかして梅子うめこもやりたいが困こまつたものだとしきりに相談さうだんして居ゐます
とどこからともなく一人ひとりの白髪はくはつのお爺おやさんが出て來きて。

「お前まへたちはふだんから誠まことによい心掛こころがけだし梅子うめこも大層たいそうよい子こだからけふ之これから
王様わうさまの處ところへ行ゆかれるやうにしてあげやう」

と云ひますので二人は飛たつ許りよろこび。

二人「どうかく梅を仕合にして下さいましお願致します」

と拜まぬ斗りに頼みました、白髪のお爺さんは立つて臺所から古い、南瓜を一つ持つて來、手にして居たむちで一つうちますとそれが立派なく箱馬車になりました、やがて又、ビー／＼と少さく口笛を吹きますと六匹の鼠がチヨコ／＼と出て來ました其内二匹の大鼠の背中を軽く打ちますとそれが勇ましい馬となり馬車の前へいつてヂヤンとつきました、あとの二匹は二人の馬丁になり二匹は、御者になりましたのでお父さんもお母さんもびつくりして腰がぬけてモジ／＼して居ました。

梅子さんはさつきから臺所で一生懸命おひるのお仕度をして居ますと庭で馬の嘶く聲がしますのでヒヨツと見ますと立派なく馬車が一輛置いてありますので之もびつくり仰天し、何事かとお父さんのお部屋へ來て見ますとそこには一人の見た事もないお爺さんが立つて居て。

「お、梅子が丁度よい處へ來たね今呼びに行かうと思つて居た處であつた、あなたもふだんから誠によい娘故今日はお褒美に王様の御殿へ行かれるやうにしてあげませう、さあ私しの側へいらつしやい」

と優しくにこくしながらおつしやるので梅子さんも何とはなしにうれしくうろくと側へ行きましたらお爺さんはさつきのむちをあげて、梅子さんの衣着物をそうつと撫でましたら、まあどうでせう、今迄はよごれてこそ居ないものゝ古いゝきたない衣服でしたのがそれはく美しいとも立派とも例へ様のない見事の着物になりました、髪はきれいな束髪になり薄桃色のリボンは蝶の羽のやうにヒラヒラ飛び、金の櫛はチャンとさゝるし帯にはピカピカと金鎖が光り、指には眞珠やルビーの入つた指環がいくつもはまり足には奇麗なく、硝子の靴がはけてしまひ、何ともかとも云ひ様のない立派なお姫様になつてしまひました。

お父さんもお母さんももうくうれしくてくたまらず、立つたり居たり、い

つの間にか腰の抜けたのも直り前へ行つたり後へ廻つたりして喜んで居ましたやがてお爺さんは。

「さあ之でもういゝから早くいつていらつしやい、けれども此立派な姿も四時迄で時計がチン／＼と打ち終るとすぐもとの古い衣服に變つてしまふから其前にきつ／＼と歸つて來なければいけませんよきつとね」と堅く／＼教へたかと思ふともをどこかへ行つてしまいました。

梅子はいそいで馬車に乗りますと勇ましい二頭の馬はソロ／＼と庭を引立て御殿の方へと馳けて行きます、お父さんとお母さんも其影も見えなくなる迄見送り。

「あゝありがた／＼ふだんから正直にして居たので神様が助けて下さつたのだ」

と大よろこびして居りました」

さて梅子はいつの間にか御殿へつきますと廣／＼お座敷には美しいお嬢さん

だちが、編物をしたり、花を活けたりいろ／＼の事をして居るとそばに王様は御覽になつていらつしやる處でしたが梅子さんがそろ／＼とは入つて來ましたのを王様は御覽になり。

「おゝ／＼よい娘が來たさあ之を縫つて御覽」

とおつしやつて立派な布を御出しになりました、梅子さんは一生懸命に縫つて居ますと王様は一寸も側をはなれず見ていらつしやいましたが。

「おゝお前は大層上手だ」

とおほめになりますので今迄いた人だちはがつかりしてしまつた位です其内に二時も打ち三時となりもを五分で四時になる處でしたので之は大變うか／＼して居られないと王様も少し縫つてとおつしやるのを、無理にお断して大急ぎ馬車でうちへ歸り玄關へ上ると四時をチン／＼／＼と打ちましたが、あゝ不思議、花のやうな梅子さんの姿は又元の衣物になつてしまいました、それから其日の様子をお父さんやお母さんに御話していつもよりもたのしい夕方の食

事をしまいました王様は一番お氣に召した子が歸つてしまいましたが、でもをけ

ふは之でよさうとおつしやつてお部屋へ御入りになつてしましました。

又翌日になりますと梅子さんは神様が來て今日の通りのお仕度をして下さいましたので御殿へ行きお仕事をして居ります處へ王様がお出になり。

「おゝきのふの子がよく來たさあけふは之を造つてくれ」

とおつしやつていろく造花の材料をお出しになりましたので梅子さんは又々一生懸命櫻だの牡丹だのこしらへて御目にかけますので皆それが王様の御氣に叶ひほかの人だちの方へは一寸もいらつしやらない位でしたが四時にならない中にうちへ歸りました。

あともを一日、ほかの娘さんたちは朝早くから御殿へ來て。

「花子さんあの四時前に歸る娘さんはどこの方でせうね立派な御様子の上なんでも大層よく御出來になると見え王様に大變お氣に入つた様ですね、あたしだちはもをだめでせうか」

とくやしさに云ひました花子さんは。

「ほんとうにあの子はあたしたちの邪魔ですなけふこなければよいのに」

などと云つて居ます處へ梅子は又入つて來ました、そしてわき目もふらず一生懸命に、花を作つて居ります處へ又王様が入つていらつしやいました。

「けふは繪を書いてごらん」

とおつしやつて紙や筆や繪の具やらを御出しになりました、お仕事や外の事は平素お母さんに習つてよく知つて居りましたが繪などは一度も書いた事がないのでどうしようかしら出來ませんと云つたら王様が御叱りになるだらうし、へたの物を書いて笑はれるのもつらいしあゝ困つた、やつぱりこんな處へ來ないでお父さんやお母さんの側に居た方がよかつたと獨り心配して居ました、梅子さんがもちゝして居るのを見た他の人たちは。

「あゝうれしいけふこそあたしたちが上手に繪を書いてほめられやう」と皆書き初めました。

時間^{じかん}はどん／＼たつし繪^えはちつとも出來^でず泣^なきたい位^{くらゐ}に心配^{しんぱい}して居^ゐる處^{ところ}へ後^{うしろ}へ來^きて手^てを取^とつて下^{くだ}さる方^{かた}があります、梅子^{うめこ}はびつくりして振^ふり返^{かへ}つて見^みますといつもの神様^{かみさま}で。

「少し用^{よう}があつて來^きてやられず可愛^{あいさう}憎^{にく}だつたもう安心^{あんしん}おしさあ書^かかしてあげやう」

といゝながら手^てを持^もつてどん／＼書^かいて下^{くだ}さいましたから見^みて居^ゐる中^{うち}に美事^{みこと}な景色^{けいしき}が出來^で上^ありました、王様^{わうさま}は益々^{ますます}御機嫌^{ごきげん}よく。

「おゝ見事^{みこと}なのが出來^でた之^{これ}は上手^{じやうず}だ、さあも一枚^{まい}」

と又^{また}御出^{ごで}しになるのでおしまいにはも心配^{しんぱい}處^{ところ}か面白^{おもしろ}くてたまらずつひうか／＼と四時^じの打^うつのを知らずに居^ゐますと今^{いま}しも時計^{とけい}がチン／＼／＼と打^うたうとする處^{ところ}驚^{おどろ}くまい事^{こと}か之^{これ}は大變^{たいへん}どうしやうあゝ困^{こま}つたと繪筆^{えふで}も紙^{かみ}も打捨^{うちす}て長^{なが}い廊下^{らうか}を走^{はし}つて御門^{ごもん}の處^{ところ}へ來^きましたが、見^みるといつも待^{まち}つて居^ゐた馬車^{ばしゃ}は影^{かげ}も形^{かたち}もなく古^{ふる}い南^{みな}瓜^{ちや}が一つころがつて居^ゐて鼠^{ねづみ}が六匹^{むっぴき}チョコ／＼と溝^{みぞ}の中^{なか}へ走^{はし}つて行^ゆ

きましたおやもを四時打つてしまつたか大變くと一生懸命馳け出してうちへ歸りました。

お父さんもお母さんもいつになく梅子の歸りが遅いので心配して居ります處へはだして息をきらして歸つて來ましたので安心したもののもしや御殿で姿が變つたのではなかつたかと心配しました。

さて王様は

「三日の間で氣に入つた子はあの四時前に歸つた娘だそして一番おしまいの日碯子の靴を忘れていつた子だからあの靴のはける娘をさがせ」

とお侍に御命令なさいましたので早速御門の處へ靴を出し。

「此靴のはけた物が王様のお子様になるのだ」

と書いて出しましたのでどうかして、はきたいと方々の娘たちが來て足を入れて見ますが大きかつたり小さかつたりして丁度よい人は一人もありません。

梅子さんの處でもお父さんやお母さんが早くいつておはきくとおつしやいま

すが行くに着物きものはなしこんな姿すがたでいつてもはかしてはくれないしとあきらめて居ゐましたが。「國中くにぢうの娘むすめでどんな貧みづしい處ところの子こでも來きてはけ」と云いふお布令ふれいがで出でましたのでとう／＼梅子うめこもお母かあさんに連つれられて行いきました、見物けんぶつして居ゐる人ひとたつは。

「おやあの子こは孝行かうぎやう娘むすめの梅うめちゃんの様ようですね今迄いままで來きなかつたと見みえる」

「あの子こは誠まことによい子こだが可愛かわいそうにとてもあの靴くつははけまい」

など申まをして居ゐりましたが之々もともとも梅子うめこさんに神様かみさまが下くださつた靴くつでしたもの丁度ちやうどきつちりに合あいました。

王様わうさまはこれを聞きいてお喜よろこびになる國中くにぢうの人ひとだちは。「梅子うめこさんは誠まことに感心かんしんな娘むすめだつたから神様かみさまが助たすけてあげたのだ、あゝよかつた、めでたい／＼。と皆々みな／＼喜よろこんでくれましたのでお父とうさんもお母かあさんもお大おほ喜よろこび梅子うめこさんはどう／＼王様わうさまの御子おこ様さまになりいろ／＼の學問がくもんもさせて頂いたき幸さいはひに暮くらしましたとさ。

めでたし／＼

會 告

來る四月廿一日(木曜日)午後一時より
東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於
て本會第十五回總集會開會致し候間御
繰合せ御出席相成度候

舉行事項

- 一 開會の辭
- 二 會長の挨拶
- 三 唱歌(保姆合唱の歌)
- 四 會務報告
- 五 幹事半數改選
- 六 演說
- 七 保育上の唱歌及遊戲

右終りて茶菓、懇談、陳列品の參觀等を終りて閉會

參考出品物は可成的多數御提出下され度郵送は本會事務所へ直接御送附下され度候尤も返送の郵税は本會に於て負擔可致候

明治四十三年三月

フレーベル會

夏期講習會 開設廣告

來ル八月一日ヨリ十日間本會ニ於テ夏期講習會ヲ開設ス目下決定セル事項左ノ如シ

一學科

幼兒教育ノ理論及實際

東京女子高等師範學校助教授

和田 實

音樂

東京女子高等師範學校教諭

林 蝶

手工

東京女子高等師範學校訓導

藤五代策

一期日

八月一日ヨリ十日迄十日ケ間毎日午前八時ヨリ正午時迄四時間宛

一、聽講料金貳圓本會員ハ

二割引トス

右ノ外科外講演會員宿舍其他ノ事項等ハ追テ廣告スベシ

明治四十三年三月

フレーベル會

幼児談話材料

定價金四拾錢 郵税金四錢
會員特價 金參拾錢

坊間のお伽話は多くは小學校時代の子供には適しても幼児には適さぬものです。是は本會に於て特に幼児の爲めに編纂しましたのでおばあさんやお母さんが幼児のお伽には必要のものです。本書にない話は本書を標準として作話なさることが出来ませう。

幼稚園
小學校
遊戲的

手工圖形

定價金五拾錢 郵税金四錢
會員特價 金四拾錢

是は幼稚園恩物の使用法を圖示したもので幼児をして造らしむ可きものと保姆の造りて與ふ可きものとを併せて載せてあります。

幼稚園唱歌

會員に限る 實費配布
非賣品 目下編纂中

是は本會に於て特に會員中の有志者の爲めに印刷しやうと思ふので、現在幼稚園で用ゐて居る唱歌やマーチを集め様として目下編纂中です。無論販賣は致しませんから御望みの方は今の中に御申込下さい。但し會員に限ります。

幼稚園遊戲

定價金四拾錢 郵税金四錢
會員特價 金參拾錢

幼稚園に於ける共同遊戲を説明したものです。小學校の初年級や家庭に於ても頗る有用だらうと存じます。

明治四十三年四月一日印刷
明治四十三年四月五日發行

編輯兼東京市小石川區竹早町七二
發行所 和田直持

印刷者

東京市本所區番場町四番地
守岡功

東京女子高等師範學校内
フレーベル會